

# 香りに対する関心を高めるゲームの提案

香りの感じ方を共有することについての研究を踏まえて

人間空間デザインコース 1811023 鴻野桃子

## 研究の目標

香りに対する関心を高めるために  
香道での嗅覚の使い方を気軽に体験できる方法を考案すること

香りに対する関心を高める

日常生活でしない嗅覚の使い方 を体験してもらう  
ために...  
香道での嗅覚の使い方 を体験してもらう

### 日常生活でみられる 嗅覚の使い方とは？

本能的に必要な使い方 ← 無意識的な嗅覚の使い方

- ・危険を察知するため・・・煙の匂いで火事に気づく
- ・生殖のため・・・相性の良い相手が判断する
- ・在処を探すため・・・赤ちゃんがおっぱいを探す

匂いを楽しむ使い方 ← 意識的な嗅覚の使い方

- ・宗教のため・・・お供えものとして匂いを焚く
- ・おしゃれのため・・・香水をつける
- ・娯楽のため・・・アロマを焚く

匂いそのものを自分自身の中で楽しむだけで終わらず...

- ・匂いを嗅ぐ行為を通して匂い以外の別のものとイメージを結びつける
- ・他者と感覚の違いを共有する

ことに嗅覚を使うということ

## 香道とは？

香道とは、一定の作法のもとに香木を焚き、その香木の匂いの異同によって古典的な詩歌や故事、情景を鑑賞する、日本独自の芸道です。

香道では、匂いを「嗅ぐ」ことを「聞く」と表現するのが特徴で、これには、香木の匂いを通じて、自然や地球の声を聞いたり、

自分自身に耳を傾けて向き合ったりする、香道での精神が表れています。

また、現代の香道で主流なのは、香木の匂いを嗅ぎ分けて当てる、組香と呼ばれるものです。

組香には 700 を超える種類があるといわれており、その一つ一つに、ある和歌や物語文学、季節や情景や主題として設定されています。

組香では、匂いを嗅ぎ分けられたかの正否は全く重要ではなく、主題の世界観を想像し遊ぶことが醍醐味です。

目標達成のために  
日常生活でしない嗅覚の使い方を体験してもらう新しい方法を考える

↓  
そこでまず...

音 と 匂い のイメージを結びつける  
4つの実験を実施  
↑  
香道の主題（古典文学等）と置き換え

### なぜ音？

香道では主題となる古典文学等について  
予め知識がないとただの匂いを当てるゲームになってしまう。  
音や音楽は、誰でも即興的に何らかのイメージをもつことができ、  
特別な教養がなくてもできると考え、  
音と匂いを結びつけてみることにした。

### なぜボードゲーム？

楽しくて面白いということは、  
多くの人に、考案する新しい非日常的な嗅覚の使い方を  
体験してもらえるとということになると考え、  
幅広い世代の人がやってみたくなるような  
楽しいゲームを作ることにした。

実験1  
匂いから音楽を連想する体験してもらう実験

実験2  
匂いの差をどのくらい感じることができるのか調べる実験

実験3  
匂いから音楽を連想したり、音楽から匂いを連想したり  
する体験をする実験

実験4  
複数の匂いをギターのコードで表現したり、ギターのを  
聞いて匂いを連想したりする体験する実験

↓  
非日常的な嗅覚の使い方が行われ  
実験が**楽しく、面白い**ものであることがわかった

↓  
非日常的な嗅覚の使い方ができる  
**ボードゲーム**を考案することに！

日常生活でしない嗅覚の使い方が行われ、誰もがやりたくなるような**楽しいボードゲーム**  
であることを重要視してテストプレイを繰り返し...

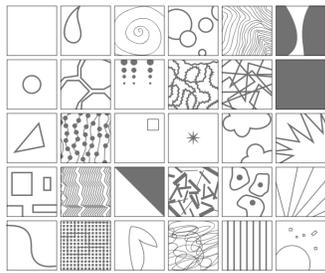
↓  
日常生活でしない嗅覚の使い方ができるボードゲーム

『**くんくんクンクン**』のゲームルール案が誕生！

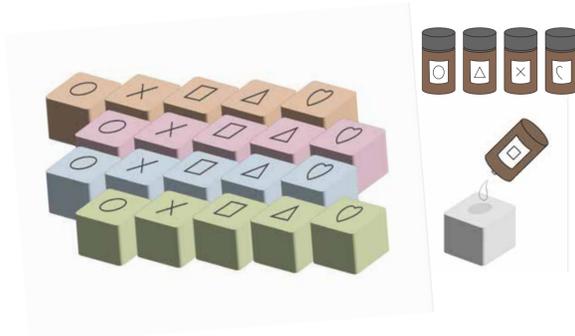
# くんくんクンクン の遊び方

## 準備するもの

・模様カード



・香りストーン



香りストーンには、○、△、□、×、♡の5つの識別マークがついています。  
マークごとに同じ匂いのアロマオイルを、裏面の窪み部分に1滴ずつ垂らして準備します。  
香り5種類1セットで、ゲームでは人数+1セット使います。  
1セットごとに色分けされています。

## ルール

ゲームは2つのSTEPに分かれています。

STEP1では、模様カードのイメージと匂いストーンの匂いのイメージの結び付け方の違いをお互いに共有して感性の違いを理解し合しましょう。

STEP2では、STEP1を参考に、他の人が別の模様カードに対してどの匂いを選ぶのかを推理して当ててみましょう。

### 準備

(1) 香りストーンを配布します。1人に5種類の匂いの香りストーンが1つずつ手元にあるように(1セット)配りましょう。このとき、識別マークは見えないように窪みのある面を上にして配ります。もう1セットはSTEP1では使わず、STEP2で使うので、端によけて置いておきましょう。

(2) 次に模様カードを準備します。模様カードは良くシャッフルし、5枚取り、場の中央に1列に並べます。残りの模様カードはSTEP2で使うので、山札にして、香りストーンと一緒に端によけておきましょう。

### STEP 1

① 各自、手元にある5種類の香りストーンを嗅ぎ比べて、場に並ぶ5枚の模様カードそれぞれのイメージに合う匂いを当てはめましょう。どの模様カードにどの香りストーンにするか決めたら、対応する模様カードの隣に香りストーンを置きましょう。  
※識別マークは見えないように注意しましょう。

② 全員香りストーンを置いたら、各々どの匂いを選んだか答え合わせです。  
答え合わせは模様ごとに行いましょう。  
『OPEN～、くんくん～!』  
の掛け声と共に、自分の香りストーンをひっくり返して、識別マークを確認します。  
匂いを再び嗅ぎ比べたりしながら、お互いの感性の違いを感じましょう! 選んだ匂いストーンが多いほど、近い感性をもっているということですか?

並べた模様カードと香ストーンはSTEP2で使うので、そのままにして、次のSTEPに移りましょう。

### STEP 2

① まず初めに親をやる順番を決めます。  
② 親の人は、まず初めに山札から1枚模様カードを引き、場に出します。端によけておいた香ストーン5つを用意し、STEP1と同様に、最もイメージに合う匂いを鍵比べながら選びます。決めたら模様カードの隣に識別マークを見えない状態のままにして置きます。

親以外の人は、STEP1で親が当てはめた香ストーンを参考に、模様カードに対してどの匂いを選ぶか予想します。このとき場にある香ストーンはいくら嗅いでも構いません。

③ 全員予想が終わったら答え合わせです。  
『THIS IS～、くんくん～!』  
の掛け声と共に、親は選んだ香りストーンをひっくり返し、他の人は場に並ぶ香りストーンの中から、予想した識別マークの香りストーンを指差します。

これを全員やって、ゲームは終了です。



『くんくんクンクン』を、23組67名の人にやってもらい、ゲームを評価するアンケートを実施。

ゲーム内では**日常生活でしない嗅覚の使い方が行われていたこと、**

**楽しく盛り上がるゲームになったことが確認できた。**



今後の展望は...

今後は商品化する等して、多くの人に遊んでもらい、日常生活でしない嗅覚の使い方をしてほしいと考える。

特に、近年世間一般的にも香りへの関心が高まってきており、

香育という子どもたちに向けた香りの体験教育も少しずつ広まってきている。

この香育では、匂いを実際に嗅ぎ比べたりすることで香りへの関心を高めるという狙いがあり、

このような香りの教育の場でのボードゲームの活用を感じている。